（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	豊橋市こども発達センター　ゆり組			
○保護者評価実施期間	令和　6年　10月　22日	～	令和　7年　1月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	10人	（回答者数）	9人
○従業者評価実施期間	令和　6年　8月　1日	～	令和　6年　12月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7人	（回答者数）	7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和　7年　3月　7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種(保育士、看護師、理学療法士)で部屋の運営を行っており、多角的に意見交換しながら日々の療育を実施している	・子どもたちの特性を配慮し、1つの療育課題でも実施方法を個々で検討している ・発作や日々の体調の変化など看護師を中心に保護者から丁寧聞き取り、情報共有している ・施設内にリハビリテーションを実施できる機能があり、担当職員とリハビリの様子など情報共有を行い、日々の療育に取り入れるようにしている	・個々のお子さんに対してのケースカンファレンスを実施し、関わりの見直しやお子さんの変化等情報共有を行う ・リハビリ担当職員に2～3カ月に1回療育に参加してもらい、情報共有を行う機会を作る
2	・定員5名と小規模なので、おおむねスタッフと１対１で対応できるため、お子さんの反応をしっかり観察できる	・日々の様子など意識して、スタッフ間で情報共有している ・個別支援計画等スタッフ間で共有し、情報交換し作成しているため、目標等の確認は全体で実施している	・保護者と密に連携をとりクラスでの様子や家庭での様子を共有し、職員も家族も同じ目標を持つことを意識する。
3	・子どもたちに危険がないように、安全計画を見直し、ヒヤリハットなど共有したり、研修に参加している	・安全計画は毎年作成し、散歩コースなど見直している。 ・ヒアリハットがあった場合は、職員間で共有し、対策を検討している。	・継続しマニュアルを見直したり、安全に療育出来るようにヒアリハット等あった場合は速やかに共有し対策を講じる。また、必要に応じて研修に参加する。

	事業所の弱み（※）だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流、保護者同士の交流の機会が少ない	・地域で交流できる場所が少ない。 ・単独の通園施設のため、保護者同士の交流の機会が持ちにくい。また、保護者の負担軽減を図るため、保護者が参加する行事を少なくしている。	・ハートケアファームさんといもほりや散歩を通して交流の場を作っている。来年度はより高齢者と触れ合う機会を設けていきたい。 ・保護者も参加する行事が少ないため、来年度はゆり組講座や園外行事の回数を増やしていきたい。
2	・給食が外部提供	・弁当を外部に注文している。 ・おかずはムース食、やわらか食、刻み食、一口大。ご飯は軟飯と通常の硬さとある。特におかずのムース食より上の形態がないのが食事の形態をあげていくときに苦慮している部分である。また、アレルギー対応が出来ないため、弁当を持参してもらっている。	・外部注文を依頼している業者と形態や食事量、金額等年に数回打ち合わせしている。 ・外部注文の給食では対応が困難な場合は、弁当を持参するなど保護者の理解と協力を得ていく。
3	・療育時間が短い	・仕事復帰を希望している家族が増えている。そのため、9：30～15：30では療育時間が短く、仕事を可能な範囲で調整してもらっており、通園を希望する家族の要望に答えられない場合もある。 ・スタッフの勤務体制も整っていない。	・保護者のニーズを把握をしていく。 ・延長時に使用可能な部屋や時間などどの程度であれば実現可能かなど施設内で検討していく。